

完了後の評価個表

整理番号	23
------	----

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	愛媛県
地域（地区）名	中予山岳	事業実施主体	県、町、森林組合、森林所有者等
関係市町村	久万高原町	管理主体	県、町、森林組合、森林所有者等
事業実施期間	H23 年度～H30 年度（8 年間）	完了後経過年数	5 年

事業の概要・目的	本地区は、愛媛県の中央部に位置し、久万高原町を対象としている。 北は、黒森山（1,154m）、皿ヶ嶺（1,278m）、石鎚山（1,982m）等の稜線により松山市及び東温市と接し、東は、三光ノ辻山（1,215m）、明神山（1,541m）、南は、天狗高原（1,485m）、牛城（1,342m）等の稜線により高知県に接している。西は丸石山（1,328m）、大川嶺（1,525m）、三郷の辻（932m）等の稜線により西予市、喜多郡及び伊予郡に接している。 本地区の森林面積は 52 千 ha で、民有林面積は 43 千 ha、人工林面積が 36 千 ha である。人工林の齢級構成は、13 齢級をピークとして 12 齢級以上の森林が 72%を占め、森林資源の本格的な利用期を迎えている。 また、本地区は、県下において主伐・再造林が最も進んでいる地区であり、間伐に加え、下刈りや除伐等の保育作業が必要となっており、県民の安全・安心な生活を確保するため、水源涵養や土砂流出防止、二酸化炭素の吸収等といった森林の有する公益的機能及び木材等生産機能の維持増進が求められている。 このため、本事業では、 ①伐採後の適確な更新及び森林の育成段階に応じた適切な森林整備の実施 ②木材の安定供給のため施業の集約化や路網整備による効率的な搬出間伐の促進 ③市町村森林整備計画に基づく適正な森林の管理を促進 の 3 つに留意し、造林や保育、間伐等の森林施業を効率的に実施したものである。 ・主な事業内容 森林整備 4,590ha 人工造林、樹下植栽、下刈り、除伐、 保育間伐、間伐、森林作業道 ・総事業費 2,109,065 千円（税抜き 1,970,719 千円）
----------	---

① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化	令和6年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。 事業着手以降、当初の予定よりも施業の集約化が進んだことにより、保育間伐及び間伐の施業量が増加したことを踏まえ費用便益分析を実施した。 総便益（B） 30,291,989 千円 総費用（C） 5,328,783 千円 分析結果（B／C） 5.68
② 事業効果の発現状況	・更新、保育によって4,590haの森林が整備され、水源涵養や土砂流出防止等といった森林の有する公益的機能の維持推進が図られた。 ・森林整備事業の発注による雇用の場が提供され、地域の社会経済の振興に貢献した。
③ 事業により整備された施設の管理状況	整備された森林は、森林経営計画等により継続して適切に管理しており、良好な管理状況にある。
④ 事業実施による環境の変化	森林整備の実施により良好な森林が形成され、水源涵養、山地保全、木材等の林産物の安定供給等、様々な多面的機能が発揮されている。
⑤ 社会経済情勢の変化	本地区の人口は、年々減少傾向にある中で、林業就業者数は、平成27年度には252人であったが令和2年度は231人に減少している。 こうした状況の中、林業の現場では、効率的で生産性の高い高性能林業機械を含む機械作業システムの導入が進められており、担い手の確保とともに高性能林業機械のオペレーターの育成を推進している。 また、県内では大規模な木材加工施設やバイオマス発電施設等が稼働し、木材需要が拡大しており、木材の安定的な供給を通じて地域経済の振興に寄与していくことがますます求められている。
⑥ 今後の課題等	森林の有する公益的機能の維持増進を図るためには、適正な森林施業の実施や森林の保全により健全な森林資源の維持造成が必要であるが、費用負担や担い手の不足が課題となっている。このため、造林については自然条件等に応じ、有用広葉樹による天然更新を活用した針広混交林への誘導を検討する等、多様な森林整備を行うことが重要である。また、人工造林に当たっては、コンテナ苗の活用や耐久性と利便性に富む路網整備に取り組むとともに、伐採と造林の一貫作業の導入、植え付け効率の向上等の効果が期待されるコンテナ苗の導入、保育については、気象条件や植生の繁茂状況等に応じた適切な時期に、適切な作業方法により行うことで作業の省力化・効率化を図る必要がある。さらには、森林所有者に対する森林整備の普及啓発等を行い、積極的な森林施業の実施を促進する必要がある。 地元の意見： （久万高原町） 森林施業の集約化や路網整備を通じて施業の低コスト化を図りつつ、森林整備を計画的に実施することで森林の有する多面的機能の維持増進に寄与している。 森林整備事業実施により土砂流出の防止、水源涵養機能等の公益的機能の高度発揮に寄与している。

評価結果	必要性： 水源涵養や土砂流出防止等といった森林の有する公益的機能の維持増進を図るためには、適正な造林や保育、間伐等の森林整備が必要であることから、事業の必要性が認められる。 効率性： 森林施業の集約化・機械化等を通じた効率的かつ適確な森林整備を実施しており、費用便益分析の結果からも、事業の効率性が認められる。 有効性： 森林資源の現況を踏まえた計画的な事業の実施により、森林の有する公益的機能の維持増進が図られていることから、事業の有効性が認められる
------	---

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：愛媛県

地域(地区)名：中予山岳

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	7,590,578	
	流域貯水便益	2,302,549	
	水質浄化便益	9,388,088	
山地保全便益	土砂流出防止便益	7,953,204	
環境保全便益	炭素固定便益	989,103	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	2,068,467	
総 便 益 (B)		30,291,989	
総 費 用 (C)		5,328,783	
費用便益比	$B \div C = \frac{30,291,989}{5,328,783} = 5.68$		

森林環境保全整備事業 中予山岳地域(愛媛県)



久万高原町

凡例	
計画区域・事業区域	
整備箇所	

愛媛県全図

